
隨筆： 幼稚園児とみつ豆

梓沢何某

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

隨筆： 幼稚園児とみつ豆

【ZPDF】

N7671P

【作者名】

梓沢何某

【あらすじ】

日々のくらしの隨筆です

私は喫茶店を冷やかすのが好きだ。

冷やかすといつても礼儀としてアメリカン（なければ普通の）と空腹で財布と時間に余裕があればナポリタンを頼むことにしている。どんな喫茶店を冷やかすかというと、チェーン店ではなく個人経営の、おっさんおばさんの類が地域密着で経営しているやつで、地域密着のあまり、よそ者が入りづらい店がなおり。

いひいう店でダラダラと時間を潰している人が羨ましい。新聞読んでる爺さんがふるふるしながらピースの灰を落としている光景などなんとも牧歌的で好きだ。

午前中ちょっとだけ働いて午後はこうしてヒマを潰す、こういう生活スタイルに憧れる。豊かでなくとも憩いがあれば人生勝ち組だと思つ。

「なべての頂に憩いあり」とはゲーテの言葉である。

こないだの夏の昼頃、たまたまこいつ喫茶店を見つけてガラッソ入ったら、扇風機に当たってたおばさんがえらいビクッとして血迷うたか「まだ準備中で、営業しておりません」など言つ。いや、しかと見たぞ。

営業時間 7：00～19：00

その日は諦めて大學に行つたけど、後日、日を改めて入つてナポリタンを頼んだ。このおかあさんの手作り感がたまらない。他人のおかあさんが握つたおにぎりを出されたような複雑な気持ちとせめぎあいつつ食すれば語り尽くせぬ滋味があるものだ。

こないだも行つたら、近所のおばあちゃんが女のお孫さんを連れ

ていらっしゃつていて、幼稚園年中さんあたりでしうが、鼻の下
てらてらさせて指なんか舐めてらつしゃる。

「ちゃん何食べよつかね」

「…ケーキ」

「ケーキは無いわね、甘いのがいい?じゃ、すみませゑみつ豆二つ」

持つて来られたみつ豆二つ。

もちろん餡は入つていない。

女の子うると甘いのを期待してたどたどしく口に運べば、とたん
にムスッとして幼い眉に皺を寄せる。

おばあちゃんは店のおばけちゃんと談笑中である。

出口の見えぬガールズトークにムスッとしたままフォーグが進ま
ない女の子の顔。

「…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7671p/>

随筆： 幼稚園児とみつ豆

2010年12月31日19時30分発行